

- ◆日時: 令和3年(2021)6月5日(水) 10:00~16:30
- ◆場所: 横浜市緑区白山地区(見学会)、みどり一む(勉強会)
- ◆参加: 合計25名(午前19名、午後17名)

地域別内訳:横浜市緑区 14名(内、白山7名)・緑区外(横浜市)5名・横浜市外6名

1. 概要

(1)背景

平成26年(2014)10月6日午前10時30分、台風18号による大雨で、横浜市緑区白山で、高さ22mの崖が崩れ、アパート1階の室内(窓側)にいた30歳の会社員が土砂に直撃され亡くなった。この災害には、開発業者の責任・行政の監督責任、避難指示発令の遅れ、避難所運営等様々な課題があり、関心の高いテーマだったので、地元の「まちづくりネットワーク緑」で検討を始めた。さらに、どこでも発生する土砂災害でもあり、災害の安全安心について検証するための確認として、自治会長、防災専門家や防災塾・だるまの皆さまへ声かけを行い、勉強会が成立した。

(2)全体の進行

午前の部: 当地区の鎮守である白山神社(緑区遺産の碑がある。

関東大震災で荒廃、地域で再興)を調査後、白山自治会館を訪問し、被災された地区の当時の白山自治会長(三田さん)から避難状況の説明を受けた。その後、災害現場と地域の状況を調査した。

午後の部: みどり一むで被災者への黙とう後、「防災塾・だるま」の鷲山塾長と荏本教授・杉原氏の挨拶をいただき、活発な意見交換が行なわれた。最後に「まちづくりネットワーク緑」の樋口代表の音頭で「よこはま地震防災市民憲章」を唱和して終了した。



左端の建物1階に土砂侵入

2. 崖崩れの状況と原因 (横浜市の見解要旨 右図参照)

(1) 崖崩れの発生状況

前日から降り続いた雨で、崖崩れが発生しやすい状況になっていた。盛土B3の道路排水や雨水が集中し、地下水位が高くなったことから、盛り土の北側が1回目の崩壊、間を置かず南側が削りとられ、続いて2回目の崩壊が発生したものと推定された。

なお、盛り土の量は、合計8800m³崩壊土砂4300m³、残留盛土4500m³、と推定される。

(2) 崖崩れが発生した3つの原因

- ① 時間当たり45mm・継続雨量300mmに達する記録的豪雨
- ② 大雨による多量の地下水が集中し、盛り土の崩壊を誘発
- ③ 地山上の盛り土部分が崩壊

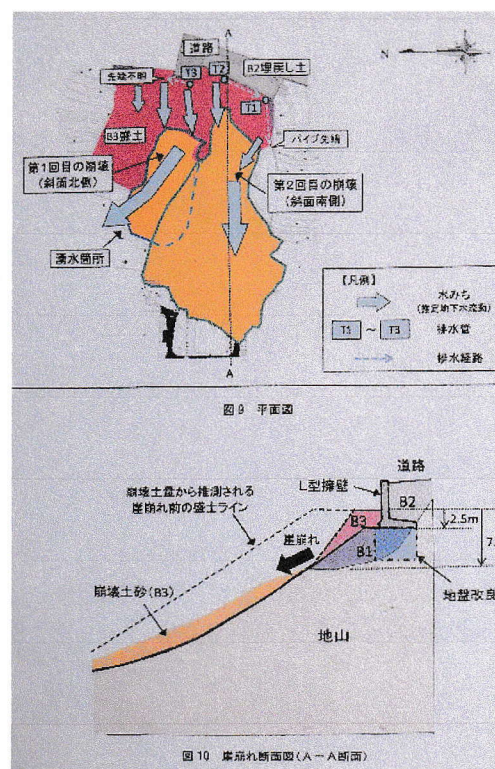


図10 崖崩れ断面図(A-A断面)

参照:「台風18号による崖崩れの対応について(横浜市建築局発表資料)」 <https://www.city.yokohama.lg.jp/shikai/kiroku/katsudo/h...>

＜事故の発生経過と対応崖崩れの現場の経過＞ 関係資料より

時系列の動き		備考
平成 12 年(2009) 平成 13 年(2010)3 月 9 日	崖の中腹部分に住宅造成計画 危険区域のため建築は許可されず	近隣住民からの通報による 宅地造成等規制法違反
平成 26 年(2014) 10 月 5 日 18 時 27 分 10 月 6 日 8 時 10 分 10 時 30 分 12 時 00 分 13 時 39 分 23 時ごろ	台風 18 号 大雨(土砂災害)警報 土砂災害警報発令 横浜市北部 崖崩れ発生 応急仮設工事 避難勧告通達 上山小学校に避難 緑区白山連合自治会長宛に FAX 捜索隊により被害者みつかる	災害対策基本法に準じて実施 避難勧告は出されていない 横浜市で崖崩れ 108 件発生 7 世帯 21 人(がけ地上下) 自治会・防災拠点への連絡なし
10 月 7 日 19 時 00 分 20 時 11 分 10 月 9 日 19 時 00 分 10 月 10 日～11 日 12 月 17 日～翌年 8 月	避難勧告一部解除 除く避難か所 同自治会への FAX 通達 現地説明会 その後 2 回 ブルーシート掛け、竹伐採等 行政代執行工事	避難は 10 月 17 日まで継続 台風 19 号対応、鴨居中に避難 仮設排水経路確保 土砂搬出、斜面保護、排水施設

3. 土砂災害現場の調査

(1) 避難状況

急なお願いだったが当時の白山自治会長から説明を受けた。

- ・台風 18 号で崖崩れが発生、男性が亡くなられた。
- ・地元消防団も救出に出動し、自治会は後方支援を行った。
- ・避難勧告では、隣町の上山小学校への避難が指示され、住民が移動した。(通常の避難所は鴨居中学校)
- ・白山自治会では、車両を手配して上山小学校にいた避難者を白山自治会館に連れ戻し、受け入れることを区役所に連絡した。避難は 10 月 17 日まで継続した。
- ・要援護者は自治会、鴨居ケアプラザ、民生委員が連携し施設へ受け入れるようお願いした。
- ・家庭防災員や近所のお手伝いにより炊き出しが行われた。白山自治会から区役所に寝具と食料の提供を要請した。
- ・避難者は白山自治会館が 5 世帯 18 名、白山みどり自治会館が 2 世帯 3 名だった。



(2) 避難現場の今

- ・この崖地に住宅を建てる予定であったが、許可されなかった。
- ・被害のあったアパートは撤去され更地になっていた。
- ・がけ部はコンクリート構造物で固められていた。
- ・なお、下流下水の水量から見て、がけから出る水量は相当多そうだ。



(3) 現地調査

- ・駐車場から崖崩れ箇所を視察した。
- ・アパートの持ち主から、大勢で現地を見ていることに不快感が示された。三田前白山自治会長が説明し了解を得た。(イベントの前に現状確認しておいたほうが良かった。)

4. 勉強会での主な意見

(1) 不法造成地で、建設は中断されたが、放置されていた。

- ・「宅地造成等規制法違反」の土地であり、行政の指導で「造成の解除処置」を取るか、処置できないなら「台風襲来以前に避難勧告」を出し、避難してもらうべきであった。
- ・この対応のポイントを絞って対応しておけばよかった。

(2) 連絡の混乱により、関係者の対応が遅れた。

- ・台風 18 号接近で土砂災害警報が横浜市北部に発令された。
- ・崖崩れ発生後に避難勧告が通達された。早めの勧告があれば避難できたのではないか。
- ・自治会への連絡は事故発生後であり、対応が後手後手となった。
- ・避難先は近隣の上山小学校が指示され住民が避難した。本来の避難先である鴨居中学校地域防災拠点に災害発生報告や説明がなかった。
- ・そこで、自治会長の判断で地元の自治会館を避難所とし、車両で移動、避難生活を開始した。
- ・被災か所の上(白山みどり)と下(白山)の地域は別の自治会で、それぞれの自治会館に避難する分かりにくい対応になった。

(3) 行政と地域の連携関係

- ・住宅造成計画に対する近隣住民の反対で、建設計画が許可されなかった。
- ・自治会や防災拠点への説明・情報伝達・意見交換がなかった。
- ・行政が絡むものは、キッカケ作りをして味方にするすることで、相談を受けられるようになった。
- ・要支援者名簿の義務付けもされ、より連携が大事になっている。
- ・トップの人材が大切、同じ目線で支え合う関係が大切だ。

(4) 現地の地盤の特徴

- ・古い盛土の上に新しく盛土され、滑りやすくなっていた。
- ・広島県等の崖地の開発で土砂災害が起きている。熊本県でも新築家屋が崩れており、地盤が関係する。過去の災害を調べておくことだ。
- ・横浜市では氷河時代にたまった泥と元の地形が持ち上がり、やわらかい層があることを認識すべきだ。地質の調査では長周期の微振動が多くの場所で見られ、地震での影響を受けやすい。
- ・防災科研から借りた地震計を置いて観測している参加者がいた。



(5) 地域の防災知識の普及

- ・避難情報の取り扱い等防災への関心を持ってもらう防災教育をどう徹底するか。
- ・防災士や SL(セーフティーリーダー)が行政と協働する時代になっている。市民の力が大切だ。
- ・配布マップを基に現地を見ておくことだ。現場に危険が潜んでいる。
- ・支援学校での経験では、多様な関係者がおり、課題を整理し、目標を決め評価している。
- ・避難所や祭りで参加した子どもを中心にネットワークを作り防災の大切さを教えている。

(6) 個人としての対応

- ・被災者本人は寝ていたので、死ぬとは思わなかっただろう。
- ・マップを見て危険な場所に住んでいることを知る努力も必要である。
- ・勤務(夜勤)明けで、土砂災害警報の発令に対応できなかった。

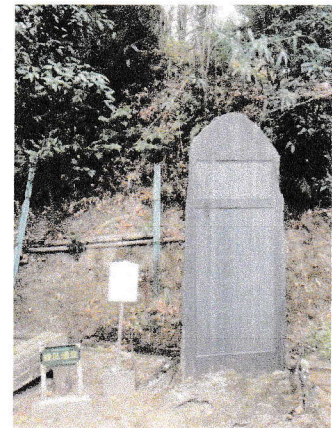
5. まとめ

(1)課題

- ・人が死なない防災とするため、リスクに自ら気付いて共有できるコミュニティーを作って行こう。
- ・現場の状況を把握し、話し合い、問題を絞っておくこと。現場目線でまとめ対応すべきだ。
- ・目標が決まれば、アクションプランをつくり、さらに、地域防災計画に織り込んでおくこと。
- ・横浜の地盤が弱いことが分かった。これを前提とした防災活動をすべきだ。
- ・避難所の選択も身近な自治会館や小中学校等多様な施設があり、活用の仕方にも取組みたい。
- ・今回のテーマは小さな疑問から始まり、調べると資料が沢山出てきた。さらに規模を拡大して専門家に興味を持ってもらい、多くの方たちの知見を得ることができ、多面的に学習できました。

(2)最後に

- ・地域の災害でしたが、この様な災害はどこでも起こり得ることであり、今回の教訓を活かして防災・減災に取り組んでいきたい。事故もなくスムーズで、この場を借りてお礼を申し上げます。



・白山神社の碑 = 緑区遺産(登録 004 号)・・・「まちネット」の提案で実現した。 関東大震災で荒廃した神社を 10 余年後に地域の協力で復興したこと

* 添付資料:チラシ

* 当日の配布資料

- ① 次第とチラシ(田中喜世美氏作成)
- ② 事故発生と発掘現場
- ③ 台風 18 号による崖崩れの対応について(横浜市発表資料)
- ④ 横浜市緑区白山で発生した土砂災害(メモ)
- ⑤ 平成 26 年台風第 18 号に伴う被害状況
- ⑥ 緑区白山四丁目の宅地造成等規制法違反の代執行工事終了
- ⑦ 横浜市・緑区の台風崖崩れ、遺族の請求棄却 地裁判決
- ⑧ 関東平野の変遷、地形区分ほか(荏本氏提供)
- ⑨ その他資料

以上

実行委員会メンバー6人

池田(企画)、田中(晃 記録)
田中(喜) 早川、
山口(章) 吉開